

# くらしのすまいるぐ

地球と人に優しい家づくり・くらしづくりの情報広場

2021年2月吉日発行  
NO.0080  
発行責任者：(有)文化舎東毛  
〒376-0101  
みどり市大間々町大間々1190-4  
☎0277-73-4850

## 今月の話

1. 今月の話題 ～花粉症？インフルエンザ？コロナ？～
2. 建築知識 ～太陽は冬は南面に夏は東西面に射す～
3. 世界と日本のコロナ感染状況比較
4. コロナで変わった生活様式 ～家選びの意識にも変化～
5. 愛犬と暮らす ～人間と犬の歴史～
6. 辛口コラム ～新型コロナ、1週間で感染力なし？～



## 今月の話題 ～花粉症？風邪？インフルエンザ？コロナ？～

2月と言えば花粉シーズン。昨年はクルーズ船プリンセスダイヤモンド号のコロナ感染者数やマスク争奪戦に気を取られて、花粉の飛散が奇跡的に少なかったことに気付いていない方も多いのでは？

風邪と花粉症の区別がつかず、風邪薬を飲み続けたという話はよく聞きますが、さらにインフルエンザとコロナが加わり、無症状や併発が加わり本当にややこしい！！上記はハーバード大学が昨年作成した症状の特徴早見表に和訳を付けたものですが、気になる症状がある方は参考にしてみたいと思います。

	せき	熱	痛み	寒気	疲労	頭痛	下痢	喉痛	息切	味匂	胸痛	鼻水	クシャミ	涙目
コロナ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○
インフル	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○
風邪	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
花粉症	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

● ほぼ全員 ● 時々 ● 少々 ● 稀に ○ 無い

Source: WHO, CDC Revised 5/1/20  
www.co.carver.mn.us/covid-19  
CARVER COUNTY Public Health



さて今年は例年より花粉飛散量はやや少ないものの、昨年の倍以上は飛散するという予報。「はくしょん」「ずずっ」と鼻をかむ音、ティッシュの山は周囲に緊張感が漂ってしまうかも・・・まずは、職場や仲間には花粉症であることはアピールしておいた方が良いでしょう。

公共の場では自粛警察にからまれては面倒ですから、「花粉症です」ステッカーなるものをマスク等にはっておくのも良いかもしれません。こんなことを考えないといけないことが残念です。

楽天ショップ 花粉症ステッカーで検索



## 建築知識 ～太陽は冬は南面に夏は東西面に射す～

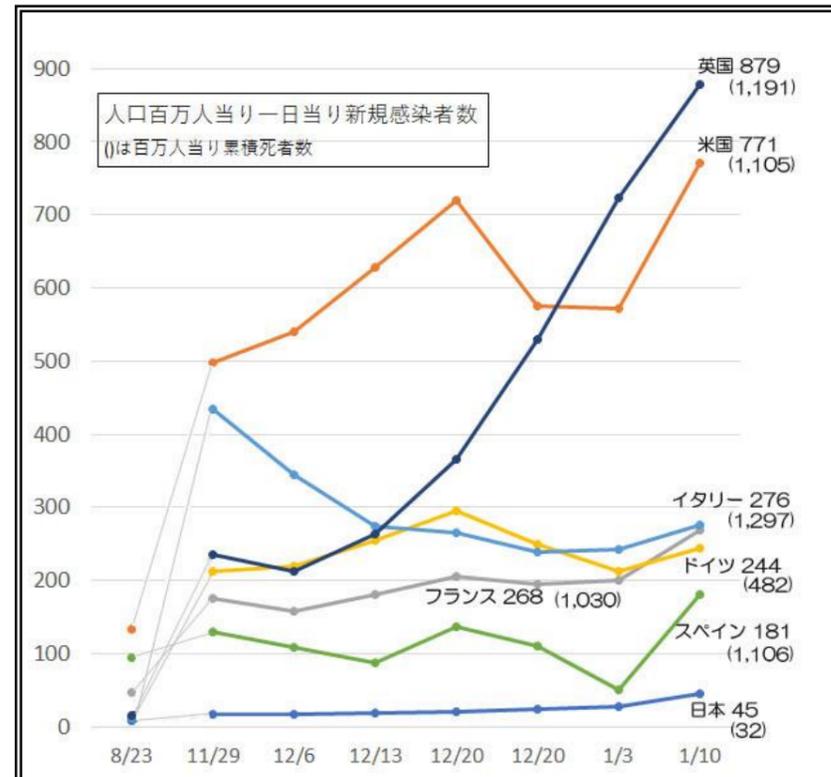
陽射しの温かさは心地良いものです。1950年頃は未だ石油ストーブもなく火鉢で手を温めて暖をとりました。太陽が頼みの綱、そこで当時は南側の開口を大きく取り陽射しを精一杯受けられるようにしました。夏になると、味方だった太陽が敵に回ります。エアコンはなく風通しだけが頼りです。太陽は高く上がるようになるので、少し庇があれば陽射しが南の開口から家に差し込むことはありませんが、午前中は東から午後には西から敵に回った陽が差し込みます。そこで昔の大工さん達は決して東西に大きな窓を付けませんでしたし家そのものを東西に沿って建てました。その後、エアコンが普及し暖冷房が一般的になると人々は太陽の恵みや怖さを忘れてしまい、寝室が明るくなると西や東に大きな窓を設ける例が少なくありません。明るい寝室に人は居ないのに。しかし太陽熱の力は無視できるようなものではありません。

そのメーカーが無責任だと思うのですが、冬は南の日が当たらず夏は西日が大きな窓に当たるため、この家は年中殆ど雨戸を閉めています。簡単です。南の開口は大きめに温もりを入れ、東西の開口は例えば縦細長の窓などで小さくする。家の長辺を南に向ける。こうして太陽熱を少しでも活かすことでCO2削減に、21世紀の重要課題である地球温暖化防止に寄与することができます。



日向ぼっこ中の柴犬 写真 AC makotomoko

筆者の近隣の家は南北に細長い敷地に合わせて某ハウスメーカーの南大開口の規格住宅を西に向けて建ててしまいました。



## 世界と日本のコロナ感染状況比較。

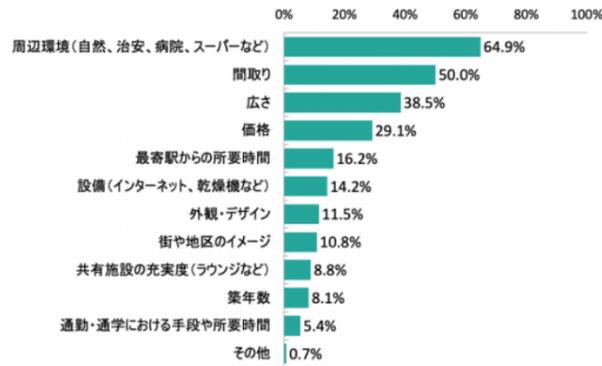
左のグラフは、月2回 web 上で更新しています。下記のQRコードからスマホ等で掲載ページを見たいことができます。



## コロナで変わった生活様式 ～家選びの意識にも変化～

新型コロナウイルス感染症の拡大により、テレワーク、マスクの着用、消毒など生活様式が変化してきました。家選びにおいても、在宅勤務や不要不急の外出自粛により家の中で過ごすことが増えたため、より快適な生活環境を求める動きが強くなってきました。

住まいを選ぶ上で重要視するものを3つ選択してください。  
(コロナによって「住まい」への考え方に变化があった人 n=148)



住まい選びにおいて重視する要素を聞いたところ、全体の上位は「周辺環境」「価格」「間取り」であったものの、コロナの影響で「周辺環境」「間取り」「広さ」が上位を占めました。

★「価格」よりも「間取り」や「広さ」を重視する傾向にあります。

PRTIMES (プレスリリース・ニュースリリース配信サービス) 参照 [詳しくはコチラからアクセスして下さい。](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000038198.html)

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000038198.html>

## 愛犬と暮らす ～人間と犬の歴史～

江戸時代までも洋犬は少ないながらも日本に入ってきましたが、繁殖が進んでおらず犬と言えば和犬でした。しかし鎖国が終わり明治時代に入ると、文明開化に沸く日本に洋犬が次々に入ってきます。

西洋人が自分の飼い犬を呼ぶかけ声「Come here!」を当時の日本人は「カメヤ」と聞き、西洋犬のことを「カメ」と解釈したそうです。(英検 Jr.web より [eiken.or.jp/eiken-junior/](http://eiken.or.jp/eiken-junior/))



博物新編訳解 4巻 京都大学貴重資料デジタルアーカイブより  
明治時代に和訳されていた本  
左上:雪山の救助犬 右上:狼  
左下:海の救助犬 右下:狩犬

これまで、狩りで活躍していた和犬はより狩りに役立つポインターに置き換わり、救助犬、軍用犬、警察犬も登場するなど西洋犬の活躍が進みます。さらに欧米人の中に、日本在来犬を悪犬とみなすものがあり、その影響を受けて和犬を駆除する運動が進んだようです。

昭和に入り日本犬を守る会が設立されはじまりましたが、大戦の影響で人間だけでなく和犬洋犬もつらい時代を経験することになりました。

## 辛口コラム ～新型コロナ、1週間で感染力なし?～

“身内が新型コロナに罹ったため隣近所からあたかも病原菌のように見られ、止む無く集合住宅を引越す羽目になった”, という話は珍しくないようです。患者や濃厚接触者はどれ程、いつまで危険なのでしょう。

昨年5月に台湾の研究チームが100人(内9人無症状)の感染者とその濃厚接触者たち2,761人を丁寧に追跡調査し論文を出しました。濃厚接触者のうち感染したのは22人でしたが、22人はすべて元の感染者の発症から5日目以前に接触していました。発症よりも前、感染に気付かないうちに接触した人も感染、医療関係者よりも家族親族内の感染率が高かったのです。発症前の接触だけで感染した例もありました。一方無症状者から感染した人はいませんでした。

結局、発症から1週間もすると感染力がなくなるようです。身近に高熱で入院が2人、軽い風邪熱1日程度のほぼ無症状が1人いました。

風邪熱氏は発症から2週間後、保健所放免直後にPCRを自主検査したら2週間目も無症状でしたが陽性、さらに1週間後の検査では陰性でした。中には、発症済み無症状の方で半年間PCRで陽性反応が消えなかった人もいます。この方の場合、陽性でも感染力は無かったのでしょうか。

メディアは感染数で煽って脅すのも必要でしょうが、感染力が無いような陽性者も周囲から「不潔」扱いされ白い目で見られる罹患者を思うと治癒後のことも正しく報ずるべきです。

台湾の研究チームの論文は早い段階でデータに基づく分析調査が行われている一方、コロナ初期の頃、発熱が3日続かないとPCR検査はしてもらえず、検査結果が出るのにまた3日。その間に発症後1週間経過してしまい感染力は消滅。それから2週間の無意味な閉じ込めを行う日本はなんととも・・・



新型PCR検査装置



重症患者のために闘う医療従事者

